



# 軽防協ニュース速報（号外）

2024年6月19日  
軽種馬防疫協議会 事務局  
(JRA 馬事部防疫課)

## アメリカ合衆国における馬伝染性子宮炎の発生

本年5月、フロリダ州のポニーにおいて、米国で2013年以来となる馬伝染性子宮炎（CEM）の発症が確認されました。以下に、現時点までの状況について報告いたします。詳細については米国農務省（USDA）のホームページをご確認ください。

<https://www.aphis.usda.gov/livestock-poultry-disease/equine/contagious-equine-metritis>

### 発生状況

5月23日、アイオワ州エイムズの国立獣医学研究所(NVSL)が細菌培養における *Taylorella equigenitalis* 陽性例を報告しました。罹患馬はフロリダ州中部の11歳のポニー牝馬で、5月10日に3歳のポニー牡馬と交配されました。交配後、子宮内に貯留液を認めたため5月13日に子宮洗浄を行い、回収液を用いて細菌培養を行ったところ、*T. equigenitalis* 陽性を確認しました。

5月31日、罹患牝馬と交配した3歳ポニー牡馬についても *T. equigenitalis* 陽性であることが確認されました。さらに、保存されていた交配前後の牝馬血清を用いて補体結合反応(CFT)を行い、ポニー牡馬が感染源であることを確認しました。感染した牝馬と牡馬はフロリダ州の検疫下におかれています。敷地内の感染の可能性がある他のポニー4頭（牡馬3頭、牝馬1頭）についても NVSL にて検査されました（結果は保留中）。

6月12日、NVSL はフロリダ州の初発施設で繋養される6歳ポニー牡馬が *T. equigenitalis* 陽性であることを確認しました。この牡馬と最初の陽性牡馬は5月に1日違いで共通の精液採取器具を用いて採精されていました。

罹患牝馬と牡馬2頭はフロリダ州の検疫下におかれています。牝馬と牡馬1頭は治療が終了しており、21日後に再検査が予定されています。同居のポニー4頭（牡馬2頭、牝馬2頭）は NVSL による検査中です。最初の陽性牡馬を追跡したところ、同馬は2021年にミズーリ州ポーク郡の牧場で生まれ、2023年8月まで繋養されていました。同馬の母馬は感染している可能性がある唯一の馬であり、検査予定です。追跡調査および疫学調査が進行中となっています。

### 馬伝染性子宮炎とは？

馬伝染性子宮炎（Contagious equine metritis, CEM）は *Taylorella equigenitalis* によって引き起こされる馬科動物特有の性感染症です。交配時もしくは感染物との接触を介して容易に感染が広がり、制御が難しい疾患です。牝馬、牡馬ともに受胎性に影響を及ぼします。牝馬は症状が明らかでないこともあり、牡馬は全く症状を示さないまま細菌のキャリアーとなります。

日本においては1980年に日高胆振地方で流行し、20年以上にわたって発生が継続していましたが、2005年を最後に発生していません。2010年には馬防疫検討会においてサラブレッド種における清浄化が宣言され、その後もサーベイランスを継続しています。